

報道関係者各位

IQVIA ジャパン トップライン市場データ

21 会計年度（21 年 4 月－22 年 3 月）・22 年第 1 四半期（1 月－3 月）

21 会計年度の日本医療用医薬品市場は、前年比 3.3%増で
10 兆 6,887 億 10 百万円。

会計年度で「病院」「開業医」「薬局その他」全 3 市場のプラス成長は 2019 年度
以来 2 年ぶり。前年度は 3 市場ともマイナス成長。

- 2021 会計年度: 10 兆 6,887 億 10 百万円 (3.3%増)。市場別では、「病院 (病床 100 床以上)」4 兆 9,675 億 50 百万円 (前年比 5.1%増)、「開業医 (病床 100 床未満)」2 兆 4 億 17 百万円 (0.4%増)、「薬局その他」3 兆 7,207 億 43 百万円 (2.6%増)
- 2022 年第 1 四半期: 2 兆 5,570 億 22 百万円 (3.6%増)。市場別では「病院」1 兆 1,874 億 38 百万円 (5.1%増)、「開業医」4,747 億 93 百万円 (3.1%増)、「薬局その他」8,947 億 91 百万円 (2.0%増)
- 新型コロナウイルスワクチンは政府一括購入のため、IQVIA ジャパン「日本医薬品市場統計」には反映されておられません

IQVIA ジャパン グループ (本社: 東京都港区、会長: 湊方彦) は、2021 会計年度 (21 年 4 月－22 年 3 月) と、2022 年第 1 四半期 (1 月－3 月) の日本医療用医薬品市場 (薬価ベース) を、「IQVIA ジャパン トップライン市場データ」として 2022 年 5 月 24 日に発表しました。

IQVIA ジャパン グループでは、日本のヘルスケア産業の発展と透明性の創造、および社会の皆様による日本のヘルスケア市場についての理解を深めていただくため、市場規模や薬効、製薬企業および医薬品の売上、処方、疾病に関するトップラインデータをメディアや医療・医学の研究に携わっている学術研究機関へご提供しています。当社はトップラインデータの開示により皆様と情報の共有化を図ることで、日本のヘルスケアの発展への貢献を目指しています。

Contact us at [iqvia.com](https://www.iqv.com)

【2021 会計年度（21 年 4 月－22 年 3 月）】日本医療用医薬品市場トピックは以下の通りです。

- 売上げ市場別では、「病院市場（病床 100 床以上）」（4 兆 9,675 億 50 百万円・前年比 5.1% 増）、「開業医市場（病床 100 床未満）」（2 兆 4 億 17 百万円・0.4% 増）、「薬局その他市場」（3 兆 7,207 億 43 百万円・2.6% 増）。全 3 市場のプラス成長は 2 年ぶり。
- 売上げ上位 10 薬効*では、前年比で「C10 脂質調整剤及び動脈硬化用剤」がランクアウトし、「T02 診断用検査試薬」が 2021 暦年（1-12 月）の 9 位に続き会計年度でも、2006 年のトップライン市場データ発表以来、初の 7 位ランクイン。7、9 位の 2 薬効以外は前年度とランク変動はなし。前年 7 位だった「C09 レニン-アンジオテンシン系作用薬」は 9 位で 2 つランクダウン。
- 売上げ上位 20 社（販促会社レベル**）では、2021 暦年（1-12 月）と同様会計年度でも、武田薬品工業（4,884 億 30 百万円・5.4% 減）に代わり、2006 年のトップライン発表以来初で中外製薬（5,248 億 48 百万円・10.4% 増）がトップに立った。前年度 15 位ヴィアトリス製薬、19 位日工がランクアウトし、21 年会計年度はセルジーンを統合したブリストルマイヤーズスクイブ（2,758 億 65 百万円・4.2%）が 11 位、協和キリン（1,609 億 66 百万円・4.9% 増）が 20 位でそれぞれランクイン。
- 売上げ上位 10 製品での入れ替りは、前年度 2 位のオブジーボ（1,253 億 98 百万円・11.1%）がトップに、トップだったキイトルーダ（1,195 億 27 百万円・1.1%）が 2 位で入れ替わり。昨年 9 位のイグザレルトに代わり、アイリーア（866 億 88 百万円・9.9%）が 10 位でランクインした以外は上位 10 製品のランク変動はあったもののラインナップは前年同様。

【2022 年第 1 四半期（1 月－3 月）】日本医療用医薬品市場トピックは以下の通りです。

- 売上げ市場別では、「病院市場」（1 兆 1,874 億 38 百万円・5.1% 増）で 2021 年第 1 四半期から 5 四半期連続のプラス成長。「薬局その他市場（主に調剤薬局）」（8,947 億 91 百万円・2.0% 増）で 2021 年第 2 四半期から 4 四半期連続のプラス成長。「開業医市場」（4,747 億 93 百万円・同 3.1% 増）で 2021 年第 2 四半期以来となるプラス成長。
- 売上げ上位 10 薬効では、21 年第 3 四半期以来、2 期ぶりに 4 位でランクインした「T02 診断用検査試薬」（1,007 億 47 百万円・71.4% 増）が最大の伸び。その他 2 桁成長は 8 位「N07 その他の中枢神経系用剤」（740 億 71 百万円・11.8%）で計 2 薬効。
- 売上げ上位 10 製品では、前期（21 年第 4 四半期）は、2018 年第 3 四半期のマヴィレットハイゴウ以来となる、抗腫瘍剤以外でトップとなったタケキャブ（277 億 02 百万円・11.5% 増）は 3 位。トップは前年度のキイトルーダ（289 億 70 百万円・5.1% 減）からオブジーボ（333 億 30 百万円・15.9%）に交代。キイトルーダは 2019 年第 2 四半期（4 月-6 月）から 2021 年第 2 四半期（4 月-6 月）まで 9 四半期連続トップを維持。オブジーボのトップは 2021 年第 3 四半期以来。

*** IQVIA ジャパン 「日本医薬品市場統計」における「薬効」は ATC 分類に準拠しています。**

本項の「ATC 分類 (Anatomical Therapeutic Chemical Classification) は、EphMRA (European Pharmaceutical Market Research Association: 欧州医薬品市場調査協会) により管理されている、アナトミカル薬効分類 (作用部位別薬効分類) に準じており、日本医薬品市場統計作成にあたっては、定期的に最新最適な状態に見直しを図っています。

****IQVIA ジャパン 「日本医薬品市場統計」における「販売会社レベル」と「販促会社レベル」の定義は以下の通りです。**

- 販売会社レベル：卸店に対して製品を販売し、その代金を回収する機能を持つ製薬企業
- 販促会社レベル：MR による情報提供活動を通じて販促活動を行なっている製薬企業

IQVIA について

IQVIA (NYSE:IQV) は、先進的かつ高度な分析機能、変革をもたらすテクノロジー、および臨床試験サービスをライフサイエンス業界の皆さまへ提供する世界的なリーディング企業です。IQVIA は、自社に持つ分析力、革新的なテクノロジー、ビッグデータのリソース、そして広範な事業領域における専門知識により、ヘルスケアのあらゆる側面でインテリジェントな繋がり (intelligent connections) を創出します。私たちは、IQVIA Connected Intelligence™ により、強力なインサイトを迅速かつ変化に対応する機敏性をもってご提供することで、患者の皆さまの医療アウトカムを高める革新的な治療の臨床開発の加速化や、市販化の促進に取り組むお客様をご支援します。現在、私たち IQVIA はおよそ 79,000 人の従業員が世界 100 以上の国と地域で事業を展開しています。

IQVIA は、患者の皆さまの個人情報保護の分野においても世界をリードしており、個人情報を保護するために、プライバシー強化技術や安全対策に取り組んでいます。また、医療関係者の皆さまが疾患のパターンを特定してより優れたアウトカムを実現するために必要な、正確な治療方針や治療法と関連づけに資する規模の情報を、当社では生成・分析しています。IQVIA が持つインサイトや実務実行力は、治療・治癒の道を切り拓くバイオテクノロジー企業、医療機器メーカーおよび製薬企業、医学研究機関、政府機関、保険者やその他様々な医療関係者の皆さまによる、疾患や人間の行動、サイエンスの進歩に対するより一層の理解の深耕をご支援します。IQVIA の詳しい情報はこちら (www.iqvia.com) をご覧ください。日本向けの URL はこちら (www.iqvia.co.jp)

本件に関するお問合せ先

IQVIA ジャパン グループ

広報マーケティング統括部

広報担当

Email jp.coms@iqvia.com